

企画展「帝銀事件と登戸研究所」関連イベント 主催：明治大学平和教育登戸研究所資料館

特別プログラム 第一回講演会  
「帝銀事件の再審請求を求め続けた平沢貞通さん」

プログラム予定

12：30 開場

13：00～13：10

冒頭のご挨拶と、登戸研究所と帝銀事件について概略

山田 朗（当館長，明治大学文学部教授）

13：10～14：30

「平沢貞通さんの自白をめぐる諸問題について」

酒田芳人氏（弁護士，帝銀事件再審弁護団）

「高校生が見た最晩年の平沢貞通翁 一宮城刑務所での面会に通う」

細川次郎氏（帝銀事件再審をめざす会）

14：30～14：35 休憩

14：35～15：20

「帝銀事件再審請求の経過に関する心理学的検討について

—ディスコミュニケーション分析の視点から」

山本登志哉氏（供述心理学研究所・埼玉）

15：20～15：30 質疑応答

15：30 閉場

※（時間が若干前後する可能性がございます。ご了承ください）

「平沢貞通さんの自白をめぐる諸問題について」（2018年12月1日）

酒田芳人（弁護士、帝銀事件再審弁護団）

## 1 帝銀事件の概要

1948年（昭和23年）1月26日 帝国銀行椎名町支店において、毒物殺人事件発生。

1948年（昭和23年）8月21日 北海道小樽市で平沢貞通さんが逮捕。

1950年（昭和25年）7月24日 東京地裁において一審判決（死刑）。

1951年（昭和26年）9月29日 東京高裁において控訴棄却判決。

1955年（昭和30年）4月7日 最高裁において上告棄却判決。

1955年（昭和30年）年5月7日 死刑確定。

## 2 帝銀事件再審請求の概要

（1）20回目の再審請求

（2）第20次再審請求における争点

## 2 憲法と刑事訴訟法における「自白」の位置付け

（1）自白の強要が禁止されていること（参照条文①）

（2）自白の要件として任意性が要求されていること（参照条文②、④）

（3）自白を証拠とする場合には補強法則が採用されていること（参照条文③、⑤）

（4）検察官面前調書が特別な地位を与えられていること（参照条文⑥）

## 3 平沢貞通さんの「自白」

（1）自白に至った経緯

（2）自白の内容

（3）自白に対する裁判所の評価

## 4 再審請求における「自白」の位置付け

## 5 おわりに

<参照条文>

① 憲法 38 条 1 項

何人も、自己に不利益な供述を強要されない。

② 憲法 38 条 2 項

強制、拷問若しくは脅迫による自白又は不当に長く抑留若しくは拘禁された後の自白は、これを証拠とすることができない。

③ 憲法 38 条 3 項

何人も、自己に不利益な唯一の証拠が本人の自白である場合には、有罪とされ、又は刑罰を科せられない。

④ 刑事訴訟法第 319 条第 1 項

強制、拷問又は脅迫による自白、不当に長く抑留又は拘禁された後の自白その他任意にされたものでない疑のある自白は、これを証拠とすることができない。

⑤ 刑事訴訟法第 319 条第 2 項

被告人は、公判廷における自白であると否とを問わず、その自白が自己に不利益な唯一の証拠である場合には、有罪とされない。

⑥ 刑事訴訟法第 322 条

被告人が作成した供述書又は被告人の供述を録取した書面で被告人の署名若しくは押印のあるものは、その供述が被告人に不利益な事実の承認を内容とするものであるとき、又は特に信用すべき状況の下にされたものであるときに限り、これを証拠とすることができる。但し、被告人に不利益な事実の承認を内容とする書面は、その承認が自白でない場合においても、第三百十九条の規定に準じ、任意にされたものでない疑があると認めるときは、これを証拠とすることができない。

以上

# 「高校生の見た最晩年の平沢貞通老

## ——宮城刑務所での面会に通う——」

### 細川 次郎

.....

石井敏夫氏（1934年6月5日生～2016年4月8日没。宇都宮の洋品店主）

＝昭和29年～昭和62年の33年間、平沢貞通老と文通・面会しつつ、画材などを差し入れる

＝平沢貞通老と最も長く、かつ、最も親しく接した支援者

＝平沢貞通老を物心両面で支える

＝はじめは大学生（乏しい小遣いからチーズなどを差し入れ）→その後、多い時には月30万円もの画材を差し入れ（平沢貞通老が東北大学附属病院入院中は、画材の注文が途絶えた→石井さんは寂しかったという）

.....

中学2年（13歳）

昭和54年1月27日（土）・28日（日）

東京の神田「あかつき画廊」

石井敏夫氏主催の「平沢貞通獄中画・資料展」へ足を運ぶ

平沢貞通老へ初めて手紙を送る

【写真1】

.....

昭和54年2月18日（日）

＝平沢貞通老の満87歳＝数え年88歳（米寿）の誕生日

横浜「つうりすとギャラリー」

石井敏夫氏、そして、尾崎隆一氏（＝現在、平沢貞通老を直接に知る2番目に若い支援者）と初めて会う

【写真2】

.....

中学3年（14歳）

昭和54年5月22日（火）

古井喜実（ふるいよしみ）・法務大臣に、石井敏夫氏が直訴

【写真3】

.....

昭和54年6月10日（日）

小田原「御用所画廊」

【写真4】

.....

昭和54年9月25日（火）

平沢貞通老から最初の返事＝直筆の絵ハガキ

【手紙5】

以後、ほぼ1ヶ月に1枚、直筆の絵ハガキが届く

.....

昭和 55 年 1 月 26 日 (土)  
帝銀事件から満 32 年目の日  
テレビで 3 時間ドラマ「帝銀事件」放映

.....

中学校卒業→高校 1 年 (15 歳)  
昭和 55 年 3 月 31 日 (月)  
宮城刑務所にて初めての面会  
満 88 歳の平沢貞通老と満 15 歳の細川次郎  
【写真 5】

.....

昭和 55 年 7 月 14 日 (月)  
2 回目の面会

石井敏夫氏、そして、大津健一氏  
【写真 6】

大津健一氏  
=カービン銃ギャング事件主犯  
=第 1 審死刑→第 2 審で無期懲役へ減刑→仮釈放  
で出所  
=昭和 29 年～昭和 37 年の 8 年間、東京拘置所で  
平沢貞通老の隣の独房で過ごす

週刊文春連載→徳間書店から単行本「さらば、わ  
が友——実録大物死刑囚たち」を出版→東映で映  
画化

【写真 7】【写真 8】【写真 9】【写真 10】

.....

昭和 55 年 7 月 24 日 (木)

帝銀事件の現場 (事件から 32 年後) を訪れる  
【写真 11】【写真 12】

.....

昭和 55 年 7 月 25 日 (金)  
竹内理一氏・正子さんを、練馬区石神井のご自宅  
に訪ねる  
【写真 13】【写真 14】

竹内理一氏=帝銀事件当時の読売新聞記者

竹内 (旧姓・村田) 正子さん  
=帝銀事件生存者  
=終始一貫して「平沢は犯人ではない」と証言し  
続ける

年齢が違う、顎の形が違う  
平沢を見た時に、「これが犯人だ！」とは思えな  
かった

最高裁で平沢の死刑が確定した時 (昭和 30 年) に  
は？  
→「やっぱり、私は犯人ではないと思っていま  
したから。あの頃だったら、本当の犯人が出てくる  
可能性はあったでしょう。だから、こちら (=理  
一氏) が調べているような軍関係からでも、本当  
の犯人が出てくるんじゃないか...とと思っていま  
した」

訪問に来た平田友三・法務省恩赦課長に対して  
「私は今でも犯人ではなかったと思っていますか  
ら。平沢も高齢でしょうから、恩赦は結構なこと  
だと思います」

第 18 次再審請求に提出された竹内正子さん手紙  
「あの時の犯人は平沢より大分若く、医者らしい、  
落ち着いた、そうした雰囲気を持った人でした。」

平沢には、そういうところはないように思います」

.....

.....

高校2年（16歳）

昭和56年4月6日（月）

昭和55年8月25日（月）

7回目の面会

3回目の面会

.....

.....

昭和56年4月28日（火）

昭和55年9月23日（火）

面会時に宅下げられた大作「狩勝大観」の裏打ちが出来上がる

野老山（ところやま）幸風・元警視庁鑑識課長を大塚の山川病院に訪ねる

【写真15】

.....

.....

昭和55年10月1日（水）＝都民の日

昭和56年7月22日（火）強雨

4回目の面会

8回目の面会

赤い羽を胸に付けていたら、平沢貞通老はすぐに気が付いた

大作1枚と色紙2枚を宅下げられる

【写真16】【写真17】

.....

.....

昭和56年1月6日（火）

昭和56年8月14日（金）

5回目の面会

9回目の面会

.....

.....

昭和56年1月

昭和56年8月25日（火）

平沢貞通老を逮捕した名刺捜査班長

10回目の面会

居木井為五郎（いきいためごろう）・元警部補へ電話

.....

帝銀事件についてインタビュー

.....

昭和56年夏ごろから

平沢貞通老に毎日、絵ハガキを送る＝多い時には

1日5通も

昭和56年3月27日（金）

6回目の面会

.....

昭和 56 年 11 月 15 日（日）  
高田馬場の ACT ミニシアター  
映画「帝銀事件・死刑囚」を上映  
熊井啓監督と交流会

.....

高校 3 年（17 歳）  
昭和 57 年 7 月下旬  
11 回目の面会

.....

昭和 58 年 7 月下旬  
12 回目の面会

.....

昭和 59 年 7 月下旬  
13 回目の面会

.....

昭和 60 年 4 月  
平沢貞通老が八王子医療刑務所へ移送される  
私は文通・面会を許されなくなる

「死刑の時効問題」で、東京地裁の藤田裁判官が、  
平沢貞通老を審尋

.....

昭和 62 年 2 月  
平沢貞通老重態

.....

石井敏夫さんと一緒に、帝銀事件生存者と遺族に、

平沢貞通老の釈放の同意書を求める

竹内正子さん＝同意書に署名をくれる

T 氏＝職場に訪ねて会う

A さん宅で、A さんと会う

Y 氏宅＝インタホン越しに家族と話す

.....

古井喜実・元法務大臣から細川次郎の自宅へ電話

.....

昭和 62 年 4 月 5 日（日）夜

平沢貞通老危篤

八王子医療刑務所へ駆けつける

正門前が明るい（＝大勢の報道陣）

【写真 18】

近くのビジネスホテル「B&B ビジネス」に宿泊

マスコミが去った後の遠藤誠弁護士の言葉

「マスコミは平沢が死ぬのを待っているんだよ」

.....

昭和 62 年 4 月 6 日（月）

八王子医療刑務所

①遠藤誠弁護士、②養子の平沢武彦氏、③三つ松  
要・「救う会」事務局長代行、④石井敏夫さんの 4  
人と一緒に、面会に向かう

私は面会できず

【写真 19】【写真 20】

大勢の報道陣

正門に入る場면을“やり直し”

平沢貞通老は、危篤に陥った 4 月 6 日（月）～亡

くなる5月10日(日)まで、1ヶ月以上も生き続けた

八王子医療刑務所の氷見(ひみ)・医療部長  
平沢貞通老の生命力＝「超人的」と語る

東京拘置所の看守＝牟田口裕之氏の話(＝昭和63年の平沢貞通老1周忌で)

「平沢さんが私にこう話したことがある。『自分が帝銀事件の犯人の汚名を着せられて死刑にされること自体は、交通事故で毎年1万人以上の方が命を落としていることを考えれば、まだ諦めがつく。けれども、俺の子や孫が、帝銀事件の平沢の子だ!、孫だ!と言われて、世間から痛めつけられていることを思うと、俺は死んでも死に切れない。何としても再審で無罪を勝ち取らなきゃならないんだ』。それを聞いた時、私は涙が出そうになりました」

平沢貞通老はまさに「死んでも死に切れない」気持ちで生きていたのではなかったか、と思う

.....

- ①遠藤誠弁護士＝2002年にご逝去
- ②養子の平沢武彦氏＝2013年に孤独死
- ③三つ松要・「救う会」事務局長代行＝武彦氏とほぼ同じ頃に亡くなったと伝え聞く
- ④石井敏夫さん＝2016年4月8日にご逝去

私は、平沢貞通老が危篤に陥った「あの日」を語れる「たった1人の生き証人」になってしまいました…

.....

昭和62年4月6日(月)  
危篤となった平沢貞通老に面会して来た石井敏夫

氏に、毎日新聞の小泉敬太記者が取材  
石井さんの「おじちゃん、宇都宮の石井が来たよ!」  
の呼びかけに、平沢貞通老は目を開いた!  
上半身が動いた!

.....

昭和62年5月10日(日) A.M.8:45  
八王子医療刑務所 平沢貞通老ご逝去

NHK ラジオニュースの竹内正子さんのコメント  
「今では昔のことになってしまったが、銀行に現れた犯人と平沢死刑囚とが別人であったということは、今でも確信している。再審請求は認められませんでした。せめて生きていたうちに釈放させてあげたかったです」

.....

昭和62年5月10日(日)夜  
荻窪のマンション

平沢貞通老の遺体と対面  
「あつ、あのおじいちゃんだ…」

初めて平沢貞通老の手に触れた(＝「この手で、絵を描いていたんだな…」)

薬のためか(?)、黄疸で顔や体は黄色かった  
【写真21】【写真22】【写真23】

「末期の水」  
【写真24】

【写真25】【写真26】

.....



昭和 62 年 5 月 11 日（月）夜  
仮通夜 中野の宝仙寺

札幌の鈴木貞司（すずきさだし）弁護士  
（1936 年 2 月 4 日生まれ。現在満 82 歳）  
平沢貞通老と交流した最も古い支援者  
昭和 20 年代の平沢貞通老を知る唯一の生き証人  
【写真 27】

昭和 62 年 5 月 12 日（火）昼  
本通夜 中野の宝仙寺 火葬  
【写真 28】【写真 29】

昭和 62 年 5 月 24 日（日）  
青山葬儀所 告別式  
【写真 30】

遠藤誠弁護士の言葉  
「生きているうちに刑務所の外に出してあげられ  
なかった我々の非力をお詫びします」

歴史学者の家永三郎さんから寄せられたコメント  
「事件の生存者の 1 人である竹内正子さんが終始  
一貫して『平沢氏は犯人ではない』と証言し続け  
ていること。そして、捜査員の 1 人である成智英  
雄・元警視が公然と『平沢氏は犯人ではない』と  
主張していること——この 2 点だけをもってして  
も、この裁判に疑問ありとするには充分でありま  
しょう」

昭和 62 年 6 月  
宇都宮

石井敏夫氏主催「平沢貞通 39 年の軌跡」の展覧会

昭和 62 年 8 月  
小樽  
平沢貞通老の実妹と一緒に初めてのお墓参り  
→2002 年ご逝去  
【写真 31】【写真 32】【写真 33】【写真 34】

1989 年（平成元年）8 月  
小樽  
2 回目のお墓参り

平沢貞通老の“人となり”

①前歯は 1 本も無く、言葉はとても聞き取りづ  
らかった

体は高齢のため縮んでいた

髭（ひげ）は僅か（＝自画像の髭は過剰）

髪は全部白い（＝ハゲてはいなかった）

色は黒かった

ダミ声

＝武彦さんの撮影したご長女の動画では、お声  
がそっくりだった

いつも和服（＝夏は甚平を着ていたこともあつ  
た）

腕にあせもが出来ていたのを見せたこともあった

ユーモアがあった

3号面会室に入っていくと、平沢貞通老は立ち上がって、片手を挙げて「こんにちは」

宮城刑務所では、独房から面会室への往復は自分の足で歩いていた

背は真っ直ぐ伸びていた（＝腰は曲がっていなかった）

「お元気ですか？」と問うと、プラスチック板の向こうで、いつも「この通り、元気です」と台をドン！とたたく

②コルサコフ氏症の後遺症？

明らかな嘘を真顔で言うことがあった

面会時に、「小樽の平沢貞通老の家の隣に、北の湖が住んでいて、ノコギリを引いている音が聞こえてきた」と言ったことがあった

大津健一氏の話＝「あのジジイ、本当に騙すからな」

「大津さん！ 真犯人が出て、私はここを出ることになりました」と大津氏に言ったことがあった

（＝真犯人がもう捕まってしまったようなことを言う。大津氏は、はじめは信じてしまった）

三鷹事件の竹内景助・被告人とは犬猿の仲（＝

平沢さんが嘘ばかり言うから）

③私の記憶に残る宮城刑務所の刑務官の人たち

青木氏＝小太りで小柄。目付きがちょっと怖い刑務官。いつも面会担当だった。面会用の建物ではじめに対応→腰の鍵で鉄扉を開けて、向こうに行くと、3号面会室に入って来て、平沢貞通老の隣で会話を速記

加藤氏＝四角い顔の楽しいおじさん（＝「ペヤングソース焼きそば」のテレビCMのタレントさんに似ていた）

「おっ、来たな！ 夏休みか？！」「夏休みは何日ある？ 40日！？ かあ～、俺も学生に戻りたいよ！」

3号面会室で、平沢貞通老の後ろで椅子に座っていたおじいちゃんの刑務官

（＝私の話を聞きながら、「うん、うん…」というように、頷いていた）

差し入れの受付にいたおばちゃんの刑務官

＝昭和56年8月22日（火）、どしゃ降りの雨の日の面会時に、「せっかく平沢さんから綺麗な絵を貰ったのに、濡らしてしまっただけじゃありません…」と言って、大きなビニール袋をくれた  
→次の面会で、平沢貞通老にそのことを話したら、平沢老は嬉しそうに笑って、頷いていた

冬の面会時には、面会室にストーブが置かれていた

そして、面会終了後に、平沢貞通老が廊下に出ると、上着を持った刑務官が待っていて、平沢老の肩に上着を掛けた

刑務官が上着を持って待っていてくれたのに気

付いた平沢貞通老は感動したように、大きな声で「お〜っ！！」と言っていた

大津健一氏の話＝「でも、平沢さんの態度は卑屈だよ。だから、刑務所のお役人は平沢さんには親切なんだ」

.....

#### ④平沢貞通老の折々の表情

両国の川開き＝隅田川の花火大会のことを話した時、「見たいなあ…」と、絞り出すような声で言った

（芸者さんにモテた話もしていた）

最近、菅家利和さん（足利事件で無期懲役確定→再審で無罪）にお会いして、お話を聞く機会があった

＝菅家さんは、寅さん映画のDVDやカラオケがお好きとのこと

→羨ましかった＝平沢貞通老にも、もう一度自由を味わわせてあげたかった

.....

「北海道平沢貞通氏を救う会」の人が、国際的人権機関「アムネスティ」に、平沢貞通老の問題を訴えたことを話した時

「国際的に、だいぶ問題になったようですよ」と語った平沢貞通老の表情

＝菅家利和さんや斉藤幸夫さん（松山事件で死刑確定→再審で無罪）が、釈放直後の記者会見で見せた「怒りの表情」にそっくりだった

.....

映画「さらば、わが友」＝東京拘置所で、冬に大津健一氏と平沢貞通老がお風呂に入るために、禪（ふんどし）姿で「寒い！ 寒い！」と言いながら、風呂場まで廊下を走るシーンがあることを話した時

→「う〜ん、懐かしい」という表情

.....

再審の話をした時に、私が口を滑らせて「再審は難しいと言われていています」と言ってしまった時

→平沢貞通老は下を向いてしまった

.....

高校2年の終わりの3月に修学旅行で見た琵琶湖の広さを、「青い水に白い波…！ 湖なのに、本当に海みたいですね！」と話した時

→「本当に海みたいですよ」と平沢貞通老

後ろに付いているおじいちゃんの刑務官も、高校生の私がいい話題を一生懸命に平沢貞通老に話しているのを、「うん、うん…」というように頷きながら聞いていた

面会終了後に、帰りながら廊下で、刑務官に「あの人は本当に良くやってくれる…」と平沢老が言う声が聞こえた

.....

「テンペラ画にかけては、平沢さんは『日本で指折りの絵描きさんだ』って、評判ですよ」と言ったら、本当に嬉しそうな表情だった

.....

石井敏夫さんをネタに、平沢貞通老を大笑いさせたことがある

石井敏夫さん

＝世界百数十ヶ国を旅行

＝コレクションも多数（関東大震災の絵ハガキ、双六、切手等々）

「石井さんの奥さんが、『うちの旦那は、お店そっちのけで、あっちこっちにフラフラして困ります』なんて言っていたことがありましたよ」と私

→平沢貞通老は思わず「うおっほほ！！」というように大笑い

.....

⑤石井敏夫さん

2016年4月6日＝私が最後に会った日

ほぼ昏睡状態の石井さんに、「石井さん！ 今日日は4月6日ですよ。29年前に、八王子医療刑務所へ、“平沢おじいちゃん”に面会に行きましたね」と語りかけた

→石井さんには私の言っていることが伝わっているようだった

4月8日ご逝去

.....

晩年の石井敏夫さん

宇都宮の自宅から千葉の老人ホームへ移る

石井さんとの面会に通う

平沢貞通老は石井さんとの面会の時に、「石井さん、有難う…」と言って、石井さんに手を合わせた

私が老人ホームへ石井さんに面会に行くと、石井さんは「有難うよ…！」と言って、手を合わせた

「情けは人のためならず」

石井敏夫さんは、人のために尽くした

→今度は、人から尽くしてもらおう番だ…と思った

[私は、石井さんが人（＝平沢貞通老）のために尽くす姿を、中学生の時からずっと見ていた。石井さんとの交流は37年間に及び、それは平沢貞通老と石井さんとの交流の33年間で越えた]

.....

平沢貞通老

＝帝銀事件で昭和30年に死刑確定

＝昭和62年に八王子医療刑務所で死去するまで、獄中32年間

＝死刑の執行は、なされなかった

.....

平沢貞通老が無実を訴え続けて、死刑確定後、32年間に亘って獄中で生き続けたこと。そして、一庶民である「宇都宮の洋品店のオヤジ」の石井敏夫さんが、物心両面で平沢貞通老を支え続けたことは、最大の裁判批判

[＝詰襟の制服を来た高校生の私は、宮城刑務所へ平沢貞通老との面会に通いながら、ずっとそれを見つめていた]

(石井さんの平沢貞通老への「最後の差し入れ」は、猿股だった)

.....

中垣國男・元法務大臣（帝銀事件に関するテレビ番組のインタビューに答えて）  
＝帝銀事件の生存者の証言が分かれていたこと  
（「この人だった」、「この人ではなかった」、「わからない」）が、死刑執行命令の障害となった  
→「あれが無かったら、ボクは判をついただろうと思うね」

.....

### ⑥竹内正子さん

2000年2月  
NHKが帝銀事件の番組を作成

NHKから、私が高校1年の時の録音テープを番組で使用したい旨の申し入れ  
→私から竹内正子さんへ電話  
→結局、録音テープは提供せず

「主人は新聞記者をしていましたから、取材する時には取材して、取材される時にはお断り！という訳にもいかなかった…」

ご主人（＝理一さん）亡き後は、取材に応じず  
「今は、静かに暮らしておりますから…」

.....

高校1年の時にお会いした後、「生存者のAさんにもお会いしたい」と、私から竹内正子さんへ電話  
「あんまりいい思い出ではないから。Aさんは聞かれるのが嫌なんですよ」

.....

現在、満91歳のはず

数年前、ご住所を頼りに、竹内正子さんのマンションの玄関まで足を運ぶ  
郵便受けに「〇〇（＝おそらく娘さんの嫁ぎ先の姓）」とある横に、「竹内」との追記あり  
呼び鈴は押さずに退去

.....

### ⑦最後に

私は、平沢貞通老の再審無罪の実現を見届ける  
→天国の平沢貞通老と石井敏夫さんに、無罪判決をお土産に持っていきたい

「平沢貞通老を直接に知る最も若い世代の者」として、100歳（→110歳）まで長生きして、平沢貞通老のことを後世に語り継いでゆきたい